

政治・経済	単位数	2 単位
	学科・学年・学級	第 3 学年
使用教科書，副教材等	東京書籍「政治・経済」（政経 701），	

1 学習の到達目標

- 1 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手がかりとなる概念や理論などについて理解するとともに，諸資料から，社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけます。
- 2 国家および社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や，政治・経済に関する概念や理論などを活用して，現実社会に見られる複雑な課題を把握し，説明するとともに，身につけた判断基準を根拠に社会の在り方などについて構想する力や，構想したことの妥当性や効果，実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して，合意形成や社会参画に向かう力を養います。
- 3 よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される，国民主権を担う公民として，自国を愛し，その平和と繁栄を図ることや，日本および国際社会において国家および社会の形成に，より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深めます。

2 科目の特色

「政治・経済」は公民科の科目です。上記の到達目標が達成できるよう，以下のように構成されています。

第 1 編「現代日本の政治と経済」では，現代日本の政治・経済に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論について学習します。第 1 章・第 2 章で概念や理論について学んだうえで，第 3 章でそれを活用して現代日本の諸課題を探究する活動を行います。第 3 章では，自分の探究課題（問い）を決め，情報を収集し，読み取り，整理したうえで自分の主張を決め，レポートを作成します。

第 2 編「グローバル化する国際社会」では，国際政治・経済に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論について学習します。第 1 章・第 2 章で概念や理論について学んだうえで，第 3 章でそれを活用して国際社会の諸課題を探究する活動を行います。第 3 章では，自分の探究課題（問い）を決め，情報を収集し，読み取り，整理したうえで自分の主張を決め，レポートを作成します。

なお，「政治・経済」は「公共」の学習のうえに成り立つ科目ですので，学習全体を通して「公共」との関連を図ります。

これらの学習を通じて，広い視野に立ち，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することをめざします。

3 学習の計画

	単元名	学習項目	学習のねらい	おもな学習活動
4月～5月	第1編 現代日本の政治と経済 第1章 現代日本の政治 1節 民主政治の基本原理	1 民主政治の成立	○政治の役割や、社会契約説における政府と国民との関係性について理解します。 ○民主政治にとって権力分立がなぜ重要か考察します。	○政治の役割と民主政治への道のりについて理解します。 ○ホッブズ、ロック、ルソンの社会契約説を比較し、共通点と相違点について考察します。
		2 法と民主政治	○法の意義や、「法の支配」が民主主義に不可欠であることについて理解します。 ○私法に関する基本的な考え方を踏まえ、法が自分の生活にどのように関係しているか考察します。	○「法の支配」の考え方を踏まえ、立憲主義と民主主義の関係について理解します。 ○法が自分の生活にどのように関係しているか話し合います。
		18歳からの社会参加① 18歳になるとできること	○成年年齢が変更された背景について理解します。 ○成年を迎えたらどのような点に留意する必要があるか考察します。	○成年年齢が変更された背景にはどのようなことがあるか考察します。 ○成年を迎えたらどのような点に留意する必要があるか話し合います。
		3 基本的人権の確立	○基本的人権が確立した過程と人権保障の歴史的展開について理解します。 ○人権の国際化のなかで、日本の人権保障はどうあるべきか考察します。	○基本的人権に関する原典資料を読解・比較し、基本的人権の確立や内容の変化について理解します。 ○人権の国際化のなかで、日本の人権保障はどうあるべきか話し合います。
		4 現代の民主政治	○ファシズムが生み出された背景や、多数決原理にもとづく民主政治の課題について理解します。 ○よりよい民主政治のあり方について考察します。	○直接民主制と間接民主制を比較し、それぞれの長所と短所について理解します。 ○ポピュリズムや「多数者の専制」の考え方を踏まえ、これからの民主主義はどうあるべきか話し合います。
		5 世界のおもな政治体制	○議院内閣制と大統領制の違いや、旧社会主義圏や旧植民地諸国における政治体制について理解します。 ○民主政治の諸原理が各国の政治体制にどのように反映されているか考察します。	○イギリスとアメリカの政治機構を比較し、それぞれの特徴を理解します。 ○民主政治の諸原理が各国の政治体制にどのように反映され、どのような課題があるか話し合います。

	単元名	学習項目	学習のねらい	おもな学習活動
5月 ～ 6月	2節 日本国憲法の基本原理	1 日本国憲法の制定と基本原理	○大日本帝国憲法および日本国憲法の特徴について理解します。 ○憲法改正に関する議論について考察します。	○大日本帝国憲法と日本国憲法を比較し、それぞれの特徴を理解します。 ○憲法改正に関する議論について話し合い、自分の考えをまとめます。
		2 基本的人権の保障	○基本的人権と自分の生活との関係、「新しい人権」の確立が求められている背景について理解します。 ○「公共の福祉」はどのような場合に適用されるべきか考察します。	○基本的人権が自分の生活のどのような場面に関係しているか考察します。 ○「公共の福祉」の適用について、人権が対立する具体的な場面をもとに話し合います。
		3 平和主義	○憲法第9条をめぐる意見の対立や、日本の安全保障体制の変化について理解します。 ○平和主義の下、今後の日本の安全保障はどうあるべきか考察します。	○近年の防衛関係費の増加や、政府の憲法第9条解釈の変遷の背景について考察します。 ○平和主義と国際協調主義をどのように両立すればよいか話し合います。
6月 ～ 7月	3節 日本の政治機構	1 国会と立法	○国会の権限や組織、運営について理解します。 ○日本の国会にはどのような課題があり、それをどのように解決すべきか考察します。	○衆議院と参議院の違いや、衆議院の優越が認められている理由について理解します。 ○国会における男女平等をどのように実現するか話し合います。
		2 内閣と行政	○内閣の権限や内閣と国会の関係について理解します。 ○日本の行政にはどのような課題があり、それをどのように解決すべきか考察します。	○内閣と国会の関係について、衆議院の解散や総辞職などのしくみを踏まえて理解します。 ○日本と諸外国の行政の現状を比較し、日本では今後どのような行政改革を行うべきか話し合います。
		3 裁判所と司法	○司法権の独立の必要性や裁判のしくみ、裁判員制度について理解します。 ○日本の司法にはどのような課題があり、それをどのように解決すべきか考察します。	○日本の司法が三審制をとる理由や、最高裁判所が「憲法の番人」とされる理由について理解します。 ○裁判員制度の意義を踏まえ、裁判員制度が抱える課題をどのように解決すべきか話し合います。

	単元名	学習項目	学習のねらい	おもな学習活動
		4 地方自治	<ul style="list-style-type: none"> ○憲法における地方自治の規定や、地方自治における住民の権利について理解します。 ○日本の地方自治にはどのような課題があり、それをどのように解決すべきか考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地方自治の議決機関と執行機関の関係について、中央政府と比較して理解します。 ○地方財政が抱える課題をどのように解決すべきか話し合います。
7月	4節 現代政治の特質と課題	1 戦後政治と政党	<ul style="list-style-type: none"> ○議会制民主主義において政党が必要な理由や、戦後日本の政党政治の変遷について理解します。 ○現代の日本の政党政治にはどのような課題があるか考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○戦後日本の政党政治の変遷について理解します。 ○「55年体制」や金権政治の問題を踏まえ、細川政権下の政治改革の意義と課題について話し合います。
		2 選挙と政治意識	<ul style="list-style-type: none"> ○日本の選挙制度の特徴や選挙の課題について理解します。 ○日本の選挙における低投票率を改善するにはどうすればよいか考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○衆議院議員および参議院議員の選挙制度の長所と課題について理解します。 ○日本の国政選挙にはどのような課題があり、どうすれば克服できるか話し合います。
		3 世論と政治参加	<ul style="list-style-type: none"> ○世論の形成過程、世論の政治への反映のしかた、NPO やインターネットが政治に与える影響について理解します。 ○日本の政治における争点や政治的意見を踏まえ、自分が賛同する政治的立場について考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○マスメディアを活用する際にどのようなことに注意すればよいか話し合います。 ○日本の政治における争点や政治的意見について具体的な政策をもとに話し合い、自分が賛同する政治的立場について考察します。
		18歳からの社会参加② 選挙権の行使に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ○選挙権年齢引き下げの背景や選挙権を行使する意味について理解します。 ○選挙権の行使に向けて、政党や候補者の主張をどのように検討すべきか考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○選挙権年齢の引き下げの背景を踏まえ、選挙権の行使にはどのような意味があるか理解します。 ○政党や候補者の主張について話し合い、模擬投票を行います。
9月	第2章 現代日本の経済 1節 現代の資本主義経済	1 経済活動の意義	<ul style="list-style-type: none"> ○希少性やトレードオフなど経済活動の基本原則について理解します。 ○経済体制にはどのようなものがあるか考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○希少性の度合いと価格との関係性について理解します。 ○商品を選択する際にどのような点を重視するか話し合います。

	単元名	学習項目	学習のねらい	おもな学習活動
		2 資本主義経済の発展と変容	<ul style="list-style-type: none"> ○資本主義経済と社会主義経済の成立と発展について理解します。 ○今日の資本主義経済にはどのような課題があるか考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○アダム・スミスの「見えざる手」とはどのようなことを意味しているか理解します。 ○資本主義経済と社会主義経済にはどのような特徴があるか話し合います。
9月～10月	2節 現代経済のしくみ	1 経済主体と経済の循環	<ul style="list-style-type: none"> ○家計および企業の経済活動や、各経済主体の相互関係について理解します。 ○なぜ経済は循環するのか考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○家計、企業、政府が行う経済活動について理解します。 ○各経済主体がどのように関わることで経済が循環するのか考察します。
		2 生産のしくみと企業	<ul style="list-style-type: none"> ○企業の活動や、株式会社の特徴について理解します。 ○現代の企業に求められているものは何か考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日本における株式保有比率が変化してきた理由について理解します。 ○多国籍企業が世界にどのような影響を与えるか話し合います。
		3 市場経済の機能と限界	<ul style="list-style-type: none"> ○市場における価格の役割や、独占禁止法による規制の必要性について理解します。 ○市場は必ずしも万能ではないといわれる理由について考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○需要曲線と供給曲線による価格の決定について理解します。 ○市場占有率が高まることによる企業のメリットや、独占や寡占の問題点について話し合います。
		4 国民所得と経済成長	<ul style="list-style-type: none"> ○経済活動の規模や変化をとらえる指標や、景気変動のしくみについて理解します。 ○インフレーションやデフレーションが国民生活にどのような影響を与えるか考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○なぜ物価変動によって得をする場合と損をする場合があるのか理解します。 ○「より良い暮らし指標」をもとに、日本の暮らしにはどのような特徴があるか話し合います。
		5 金融のしくみと機能	<ul style="list-style-type: none"> ○金融の役割や、金融政策の手段について理解します。 ○なぜ金融の自由化が進められ、それは日本経済にどのような影響を与えたか考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○金利の変化が暮らしに与える影響や信用創造のしくみについて理解します。 ○1990年代以降の金融政策とその効果について、諸資料をもとに話し合います。
		18歳からの社会参加③ ライフプランと金融	<ul style="list-style-type: none"> ○自分のライフプランを立て、それをもとにどの時期にどの程度の資金が必要か理解します。 ○金融商品を購入する際にリスクとリターンのどちらを重視すべきか考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○お金をどのように守り、増やし、借りるべきか考察します。 ○金融リテラシーを高めるにはどうすればよいか話し合います。

	単元名	学習項目	学習のねらい	おもな学習活動
		6 財政のしくみと機能	<ul style="list-style-type: none"> ○財政の役割や、公平な税制のあり方について理解します。 ○日本の財政の課題を抱える課題や、持続可能な財政および租税のあり方について考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日本の一般会計の歳入と歳出の変化や、プライマリーバランスの重要性について理解します。 ○国際的に突出した債務残高を抱える日本の財政は今後どうあるべきか話し合います。
10月	3節 日本経済の発展と現状	1 戦後日本経済の発展	<ul style="list-style-type: none"> ○戦後復興から高度経済成長の終焉までの日本経済の変遷と産業構造の変化について理解します。 ○バブル経済が発生した理由と終わりを迎えた理由について考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「三種の神器」が急速に普及した時期の日本経済の状況について理解します。 ○日米経済摩擦の対象となった商品はどのように変化したか話し合います。
		2 日本経済の現状	<ul style="list-style-type: none"> ○バブル経済崩壊後の日本経済の状況や、2000年代以降に試みられた経済政策が日本社会に与えた影響について理解します。 ○日本経済が抱える課題を解決するにはどうすればよいか考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日本の一人あたり GDP の変化の特徴について、他国と比較して理解します。 ○所得格差を解消するためには何が重要か話し合います。
10月～11月	4節 福祉社会と日本経済の課題	1 公害と環境保全	<ul style="list-style-type: none"> ○公害問題が発生する理由や、公害を防止する方法について理解します。 ○持続可能な社会の形成のために自分たちにできることは何か考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○四大公害の発生原因と訴訟の経緯について理解します。 ○循環型社会の形成に向けて自分たちにできることは何か話し合います。
		2 農業・食料問題	<ul style="list-style-type: none"> ○戦後日本の農業政策の展開や、林業や漁業が抱える課題について理解します。 ○これからの日本の農業と食料はどうあるべきか考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日本経済における農業の地位が低下したのはなぜか考察します。 ○日本の食料自給率向上の方策について話し合います。
		3 中小企業の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○日本経済における中小企業の地位や、日本の中小企業が抱える課題について理解します。 ○日本経済の活性化のためにどのような中小企業政策が必要か考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日本経済における中小企業の地位と日本経済の二重構造について理解します。 ○日本経済の活性化につながるベンチャー・ビジネスにはどのようなものがあるか話し合います。

	単元名	学習項目	学習のねらい	おもな学習活動
		4 情報化の進展と社会の変化	<ul style="list-style-type: none"> ○情報化の進展が社会にもたらしているイノベーションや、「第四次産業革命」が社会生活にもたらす変化について理解します。 ○デジタル社会においてどのようなことに注意すべきか考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○統計資料の読解を通して、日本における情報通信産業の発展について理解します。 ○デジタル社会の課題にはどのようなものがあるか話し合います。
		5 消費者問題	<ul style="list-style-type: none"> ○消費者問題が発生する理由や、消費者保護のために行われている施策について理解します。 ○消費社会において、自分たち消費者にはどのような知識や行動が求められるか考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○最近のおもな問題商法について、それぞれどのように対応すればよいか考察します。 ○消費者市民社会の実現に向けて、自分たち消費者が取り組めることは何か話し合います。
		18 歳からの社会参加④ 消費者市民社会の実現に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ○契約を結ぶ際に気をつけるべきことや、消費者トラブルにあった際の対応について理解します。 ○持続可能な社会の形成のために消費生活でできることは何か考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○消費者トラブルに際して契約の取り消しや解除ができるケースについて理解します。 ○消費者市民社会の一員として自分たちにはどのようなことができるか話し合います。
		6 雇用と労働問題	<ul style="list-style-type: none"> ○労働問題が発生する理由や、憲法や労働三法が保障する労働者の権利について理解します。 ○雇用・労働問題を取り巻く状況と、これからの日本の雇用のあり方について考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○雇用環境の変化と、非正規雇用者数の推移およびその理由について理解します。 ○これからの日本の雇用制度はどうあるべきか話し合います。
		18 歳からの社会参加⑤ 働き方について考える	<ul style="list-style-type: none"> ○自分に合った働き方を実現するためにはどのようなことに考慮すべきか理解します。 ○社会全体の労働条件を向上させるにはどうすればよいか考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○求人票や給与明細書の例の読解を通して、労働契約を結ぶ際に確認すべきことについて理解します。 ○自分はどのような働き方をしたいか意見交換をします。
		7 社会保障と福祉	<ul style="list-style-type: none"> ○社会保障制度の発展と変化や、日本の社会保障制度の特徴と課題について理解します。 ○少子高齢社会においてどのような福祉社会を築いていけばよいか考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国民負担率と社会支出の比率の国際比較を通して、日本の社会保障の特徴について理解します。 ○日本の合計特殊出生率が回復しないのはなぜか、諸外国の取り組みを踏まえて話し合います。

	単元名	学習項目	学習のねらい	おもな学習活動
1 1月 ～ 12月	第3章 現代日本の諸課題	1 少子高齢社会における社会保障	<ul style="list-style-type: none"> ○日本の子育て支援の現状について理解します。 ○少子高齢社会における子育てで支援はどうあるべきか考察し、表現します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○少子高齢社会における子育てで支援について、諸資料を活用しながら家庭保育と集団保育などの視点を踏まえて考察します。 ○安心して子育てできる社会の実現に向けて社会保障政策はどうあるべきか、考えをまとめます。
		2 地域社会の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ○地域社会の現状について理解します。 ○地域社会の独自性を活かしながら活性化を図るにはどうすべきか考察し、表現します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域社会の活性化について、諸資料を活用しながらブランディングなどの視点を踏まえて考察します。 ○持続可能な地域社会の実現に向けて地域社会の一員として自分にできることは何か、考えをまとめます。
		3 多様な働き方・生き方の実現	<ul style="list-style-type: none"> ○労働におけるジェンダー平等の現状について理解します。 ○性別にかかわらず働きやすい労働環境はどうすれば実現できるか考察し、表現します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○性別にかかわらず働きやすい労働環境の実現について、諸資料を活用しながらジェンダーなどの視点を踏まえて考察します。 ○性別にかかわらずすべての人が活躍できるようにするために社会をどう変えていけばよいか、考えをまとめます。
		4 中小企業の意義と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○日本の中小企業の強みと課題について理解します。 ○中小企業の強みを活かすにはどうすればよいか考察し、表現します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日本の中小企業の強みを活かす方法について、諸資料を活用しながら資金調達などの視点を踏まえて考察します。 ○中小企業の強みを日本経済の活力につなげるためにどうすればよいか、考えをまとめます。
		5 日本の財政の健全化	<ul style="list-style-type: none"> ○日本の財政の現状について理解します。 ○日本はどのような「福祉国家」をめざすべきか考察し、表現します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日本の「福祉国家」としてのあり方について、諸資料を活用しながら政府の役割などの視点を踏まえて考察します。 ○日本の財政のあり方について、主権者としての考えをまとめます。

	単元名	学習項目	学習のねらい	おもな学習活動
		6 持続可能な食料・農業の実現	<ul style="list-style-type: none"> ○日本の農業の動向について理解します。 ○農業を魅力ある産業にするにはどうすればよいか考察し、表現します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○農業を魅力ある産業にする方策について、諸資料を活用しながら付加価値の創出などの視点を踏まえて考察します。 ○農業の多様な価値を踏まえた持続可能な農業の実現について、考えをまとめます。
		7 防災と安全・安心な社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> ○日本が直面する災害とその対策の現状について理解します。 ○自分が暮らす地域の防災・減災対策はどうあるべきか考察し、表現します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分が暮らす地域の防災・減災対策について、諸資料を活用しながら、個人の権利と「公共の福祉」などの視点を踏まえて考察します。 ○安全・安心な暮らしの実現に向けた自助・共助・公助の取り組みについて、考えをまとめます。
1 2 月	第2編 グローバル化する国際社会 第1章 現代の国際政治 1節 国際政治のしくみ	1 国際政治の特質	<ul style="list-style-type: none"> ○主権国家と国際社会の形成過程や、国際社会の特徴について理解します。 ○現代の国際社会には主権国家以外にどのような主体があるか考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国際社会の特徴について、国内社会と比較して理解します。 ○各国の市民が国境を越えて結びつき、国際社会に働きかけていくべき課題にはどのようなものがあるか話し合います。
		2 国際社会と国際法	<ul style="list-style-type: none"> ○国際社会の秩序維持の要因や、国内法と比較した国際法の特徴について理解します。 ○国際司法機関がどのような役割を果たしているか考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○過去5年間で日本が締結した条約を調べ、条約締結の一般的な流れについて理解します。 ○ICJとICCを比較し、どのような点が異なっているか話し合います。
		3 国際連合の役割と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○集団安全保障のしくみが必要とされた背景や、平和と安全を維持するための国際連合の取り組みについて理解します。 ○国際連合が抱える課題について考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国際連合が成立した背景と現在の課題について理解します。 ○国連の関連機関の一つを選び、どのような活動をしているか調べ、発表します。
1 2 月 ～ 1 月	2節 複雑化する国際政治と日本	1 戦後国際関係の展開と日本	<ul style="list-style-type: none"> ○第二次世界大戦後の国際関係や、冷戦体制の変化について理解します。 ○日本はどのようにして国際社会に復帰し、どのような立場で行動してきたか考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○原典資料や地図の読解を通して、冷戦体制について理解します。 ○第二次世界大戦後、日本はどのような過程を経て国際社会に復帰したのか考察します。

	単元名	学習項目	学習のねらい	おもな学習活動
		2 冷戦後の国際関係と日本	<ul style="list-style-type: none"> ○冷戦終結後の国際関係の変化や、現在の国際社会が抱える課題について理解します。 ○日本は国際平和や安全保障のためにどのように行動していくべきか考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○冷戦後のヨーロッパが冷戦初期と比べてどう変化したか、地図を用いて考察します。 ○「アラブの春」の際に民主化運動の発生した国々が現在どのような状況にあるか理解します。
		3 地域主義の動き	<ul style="list-style-type: none"> ○世界で地域主義が進んでいる理由や、EUの成立過程および特徴について理解します。 ○地域主義の動きに日本はどのように関わっているか考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○EUの意思決定がどのように行われるか理解します。 ○日本は東南アジア諸国とどのような関係を築いていくべきか話し合います。
		4 軍縮の動向と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○核抑止体制の問題点や、軍縮をめぐる現在の動向について理解します。 ○日本は唯一の核兵器被爆国として、軍縮に向けてどのように取り組むべきか考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○米ソ(ロ)の二国間条約に着目し、軍備管理から軍縮への流れをまとめます。 ○「安全保障のジレンマ」におちいらないためにどうすればよいか話し合います。
		5 紛争・難民・テロリズム	<ul style="list-style-type: none"> ○近年、国境を越えたテロリズムが多発している理由について理解します。 ○地域紛争を予防し解決するためにはどうすればよいか、また日本は難民問題に対してどのように向き合うべきか考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域紛争はどの時期、どの地域に多く発生しているか理解します。 ○日本の難民受け入れはどうあるべきか話し合います。
		6 国際社会における日本の役割	<ul style="list-style-type: none"> ○日本の外交や安全保障が直面している課題や、今日の国際社会において日本に求められている役割について理解します。 ○日本の国際協力や開発援助はどうあるべきか考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日本の領土や歴史認識をめぐる外交の課題にはどのようなものがあるか理解します。 ○これからの日本の開発援助のあり方について話し合います。
1月～2月	第2章 現代の国際経済 1節 国民経済と国際経済	1 貿易と国際収支	<ul style="list-style-type: none"> ○貿易の意義や、国際収支の各項目に反映される経済取り引きについて理解します。 ○為替レートがどのような要因によって変動するか考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○比較生産費説や、円高・円安のメリット・デメリットについて理解します。 ○統計資料をもとに、日本の国際収支の特徴について考察します。

	単元名	学習項目	学習のねらい	おもな学習活動
		2 戦後国際経済体制の展開	<ul style="list-style-type: none"> ○現代の国際通貨体制の変遷や、近年経済政策の分野で各国の政策協調が必要になっている理由について理解します。 ○地域経済統合や FTA・EPA が自由貿易の進展にどのような影響を与えるか考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○先進国から発展途上国への資金の流れがどのようなになっているか理解します。 ○貿易自由化を進めることによって生産者などが受ける打撃をどうすれば軽減できるか話し合います。
		3 発展途上国の経済	<ul style="list-style-type: none"> ○南北問題の解消に向けた国際社会の取り組みや、新興経済諸国の現状について理解します。 ○中国の台頭によって世界経済にはどのような変化が起こっているか考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○南北間の格差の背景にはどのような歴史的経緯があるか理解します。 ○BRICS 諸国が経済成長を続けている理由について話し合います。
2月～3月	2節 世界経済の現状と課題	1 グローバル化する世界経済	<ul style="list-style-type: none"> ○経済のグローバル化の進展や、近年の国際金融の変化について理解します。 ○現在の世界経済はどのような課題を抱えているか考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○訪日外国人の増加は、日本の経済・社会にとってどのようなメリット・デメリットがあるか話し合います。 ○もしアメリカが輸入制限措置をとると、世界経済にはどのような影響があるか考察します。
		2 地球環境問題	<ul style="list-style-type: none"> ○地球環境問題や、地球環境問題への対応をめぐる国際社会の利害対立について理解します。 ○脱炭素社会の構築に向けて各国政府や自分にはどのような取り組みができるか考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地球環境問題にはどのようなものがあるか理解します。 ○統計資料などをもとに、環境保護をめぐる先進国と発展途上国の主張が対立する理由について話し合います。
		3 資源・エネルギー問題	<ul style="list-style-type: none"> ○資源・エネルギーに関する課題や、原子力発電に関する日本および各国の政策について理解します。 ○日本のこれからのエネルギー供給はどうあるべきか考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○統計資料などをもとに、一人あたりのエネルギー消費量の多い国がどの地域に分布しているか理解します。 ○原子力発電に関する廃止と維持・推進の両方の考え方を踏まえ、将来のエネルギー供給のあり方について話し合います。

	単元名	学習項目	学習のねらい	おもな学習活動
		4 人口・貧困・感染症	<ul style="list-style-type: none"> ○21世紀の世界人口の変動予想や、貧困の発生要因について理解します。 ○持続可能な社会の形成に向けて国際社会はどのように取り組むべきか考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日本に暮らす外国人の実情および増加の理由について理解します。 ○貧困の連鎖を解消するにはどうすればよいか話し合います。
3月	第3章 国際社会の諸課題	1 グローバル化にともなう社会変容	<ul style="list-style-type: none"> ○日本の多文化共生をめぐる状況について理解します。 ○多文化共生社会を実現するにはどうすればよいか考察し、表現します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○多文化共生社会の実現について、諸資料を活用しながら文化の多様性などの視点を踏まえて考察します。 ○多様性を受け容れる社会の実現に向けて自分にできることについて、考えをまとめます。
		2 地球環境と資源・エネルギー問題	<ul style="list-style-type: none"> ○地球温暖化とその対策の現状について理解します。 ○地球温暖化を食い止めるにはどうすればよいか考察し、表現します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地球温暖化を食い止める方策について、諸資料を活用しながら利害調整などの視点を踏まえて考察します。 ○地球環境を将来世代に引き継ぐためにはどのようなルールや制度が必要か、考えをまとめます。
		3 国際的な経済格差の是正	<ul style="list-style-type: none"> ○貧困と開発援助の現状について理解します。 ○貧困削減のためにはどのような開発援助が有効か考察し、表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○開発援助のあり方について、諸資料を活用しながら貧困の多面性などの視点を踏まえて考察します。 ○開発援助のために身近な生活でできることについて、考えをまとめます。
		4 イノベーションの促進と成長市場	<ul style="list-style-type: none"> ○医療のイノベーションの現状について理解します。 ○医療のイノベーションを促すにはどうすればよいか考察し、表現します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○医療のイノベーションの促進について、諸資料を活用しながら安全性などの視点を踏まえて考察します。 ○すべての人が健康を享受できる社会を実現するためのイノベーションのあり方について、考えをまとめます。

単元名	学習項目	学習のねらい	おもな学習活動
	5 民族問題と紛争の解決	○パレスチナ問題の経緯と現状について理解します。 ○パレスチナ問題を解決するために何が必要か考察し、表現します。	○パレスチナ問題の解決について、諸資料を活用しながら民族自決などの視点を踏まえて考察します。 ○民族・宗教間の対立を防ぐにはどうすべきか、考えをまとめます。
	6 持続可能な社会の実現	○SDGsの達成に向けた取り組みの現状について理解します。 ○SDGsの達成に向けて自分たちに何ができるか考察し、表現します。	○SDGs達成の方策について、諸資料を活用しながら「だれひとり取り残さない」などの視点を踏まえて考察します。 ○よりよい未来を実現するためにどのような方法が有効か、考えをまとめます。

4 評価の方法

(1) 評価の結果を生かす

評価は自分自身の学習の過程や成果を確認するためになされるものです。このことをしっかり確認し、不十分な点があればその後の学習の改善につなげるようにしましょう。そのためにも、返却されたテストやレポート、自己評価などの見直しを徹底しましょう。

(2) 評価の観点

評価にあたっては、学習で身につける力を次の三つの観点から把握します。

知識・技能	○社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手がかりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。
思考・判断・表現	○合意形成や社会参画に向け、国家および社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題について考察し、説明するとともに、身につけた判断基準を根拠に構想したり、社会の在り方などについて構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断したり、表現したりしている。
主体的に学習に取り組む態度	○よりよい社会の実現のために、国民主権を担う公民として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 ○知識および技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行うなかで、自らの学習を調整しようとしている。

(3) 評価の時期と方法

ア 各学期の定期考査では、出題範囲における知識と技能の習得の状況、思考力・判断力・表現力を評価します。

イ 現代の諸課題を探究する際のレポートを評価のための資料とします。課題の設定・追究、まとめの学習を行う際には、教科書の「探究のスキル」などを参考にしてください。

ウ 学習活動の様子や発表、討論、論述などの内容を評価のための資料とします。

エ 自己評価や振り返りシートを参考とします。学習内容の振り返りを行う際には、教科書の節末にある「節のまとめ」や「節の課題に取り組もう」などを参考にしてください。

(4) 評定について

評定は、上記の方法で得られた評価に関する情報を総合的に判断して行います。

【参考】授業の進め方と学習にあたって

(1) 授業の進め方

- ア 現代社会をとらえる視点や枠組み，基本的な概念や理論の理解を図ります。
- イ 一斉授業，グループ学習，発表などの学習活動を行い，物事を多面的・多角的に考察し，公正に判断する力を養います。
- ウ 資料から適切な情報を選択し，課題を追究する活動，レポートにまとめたり発表したりする活動などを行い，課題追究の方法や社会の在り方などを構想する力を身につけます。

(2) 学習にあたって

- ア 日ごろからメディアで報道される時事的な課題に関心を持ち，調べたり論点を見いだしたりすることに努めること。
- イ 客観的な資料にもとづいて，諸課題を考察し，解決のあり方を模索する態度を身につけること。